

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名（共 著の場合のみ記 入）	該当頁数
(著書)						
1. 『輪廻の論証』	単著	1996. 3	東方出版	インド古典期の唯物論と大乘仏教論書に見られる七世紀にもおよぶ輪廻思想をめぐる論争をインド思想界の背景のもとに描き出した。博士学位請求論文の成果をまとめた。		710頁
2. 『インドにおける密教の形成と展開』	共著	1998. 7	法蔵館	インドにおける密教の形成と展開についての研究プロジェクトにおける分担課題、大乘菩薩道の密教的展開に関する研究報告。	松長有慶・立川武蔵 杉本卓洲・奥山直司 川・信定・生井智紹 越智淳仁・北条賢三 藤田光寛・乾 仁志 室寺義仁・森田熙文 森 雅秀・頼富本宏	36頁
3. 『仏教美術事典』	項目 執筆	2002. 7	東京書籍	日本美術史上、真言密教関連項目の執筆		約20頁
4. 『密教・自心の探求 —『菩提心論』を読む—』	単著	2008. 8	大法輪閣	大乘仏教における密教の形成を菩提心を中心としてまとめ、真言密教の源流を探った。		275頁
5. 『インドからの道 日本からの道』	共著	2008. 8	出帆新社	外務省「日印交流年」連続講演録	森本公誠・吉岡幸雄 S.バルサイ 前田尊學・奈良康明 生井智紹・我妻和男 井上貴子・幸島 昇 K.ボース・長崎暢子 鈴木 修 R.チャンドラ	26頁
6. 『Path from India Path from Japan』	共著	2008. 8	Northern Book Center	外務省「日印交流年」連続講演録の 英語版インド側出版	同上	20頁
(学術論文)						
1. 西蔵文『入瑜伽修習』 和訳	単著	1968. 12	仏教学会報創刊号 高野山大学	八世紀インドにおける後期仏教瑜伽修習の典型的概要書の和訳研究。		4頁
2. 西蔵文『瑜伽修習道』 和訳	単著	1969. 11	仏教学会報 2 高野山大学	八世紀インドにおける後期仏教瑜伽修習の典型的概要書の和訳研究。		4頁
3. 菩提心偈に関する一考察	単著	1970. 7	密教文化91 高野山大学	『大日経』の菩提心思想とその展開を菩提心偈という傷頌を中心に明らかにした。		15頁
4. 後期仏教徒による Bārhaspatya批判 [I]	単著	1976. 10	インド学報 2	Bārhaspatya もしくは順世外道と称されるインド古典期の唯物論を大乘仏教思想との関連のもとに断片資料から再構成して体系を述べた。		27頁
5. 'A Survey of Bārhaspatya Philosophy'	単著	1976. 10	<i>Indological Review</i> 2.	上記論文4の英文レジュメ。		4頁
6. TSにおける前世の論証	単著	1977. 3	印度学仏教学研究 25-2	<i>Tattvasaṃgraha</i> など、インド古典哲学における唯物論に対する代表的な仏教側の批判論書についての概要を述べた。		5頁
7. Prabhācandra による Bhūttacaitanyāvada 批判	単著	1978. 3	高野山大学論叢15	インド古典期の唯物論の一理論に関するジャイナ教文献資料を詳細な註を付して和訳研究した成果。		28頁
8. 虚無と論理	単著	1979. 11	伊藤・田中教授頌徳 記念仏教学論文集	インド古典期の唯物論の虚無論的傾向を仏教、ジャイナ教の文献から特に論理学的問題を中心に明らかにした。		28頁
9. 後期仏教徒による Bārhaspatya批判 [II]	単著	1981. 12	インド学報 3	インド古典期の唯物論に対する仏教側の批判の思想史的展開を詳細に述べた。		20頁
10. <i>PV. pra. si. 77</i> の《位相》	単著	1982. 12	仏教学会報 8	Dharamakīrti 著 <i>Pranīpavārtika</i> §. II. 77偈の思想的背景について。		6頁

11. 対話	単著	1983. 3	中川善教先生頌徳記念論集 仏教と文化	後期インド仏教理論への現代的方法論と伝統的教理学とを対比して所感を述べた。	11頁
12. 聖勇造『菩薩本生鬘論』における正見と邪見の位相	単著	1983. 3	日本仏教学会年報48	Āryasūra 著 <i>Atakamāḥ</i> §. XXIII, XXIXに見られる他教徒の思想とそれに対する仏教の批判的見解について。	20頁
13. 虚無と論理 [続]	単著	1983. 8	密教文化143 高野山大学	インド古典期の唯物論の虚無論的傾向を特に仏教徒の立場との対比において明らかにした。	16頁
14. <i>TS (P)</i> 1916, 1917 ad <i>PV</i> II 46	単著	1984. 3	印度学仏教学研究 32-2	Dharmakīrti の輪廻説に対する Śāntaraksita / Kamalaśīla の解釈に、より展開した大衆的、中観的傾向が見られることを明らかにした。	4頁
15. <i>TS</i> 1468-1470	単著	1985. 3	印度学仏教学研究 33-2	<i>Tattvasaṃgraha</i> にみられる後期仏教論理学の立場から、虚無論者の脆弁論的論理観を対比して論じ、両者間に行われた実際の論議の論理学的問題点を明らかにした。	4頁
16. 説主出現の二態	単著	1985. 3	密教文化150 高野山大学	<i>Tattvasaṃgraha</i> XXVI章にみられる仏陀観を示した。	11頁
17. 〈菩薩の最後心〉について	単著	1986. 3	日本仏教学会年報51	円珍『金剛頂経疏』などの記述から菩薩の金剛喻定前後の心について検討した。	20頁
18. 後期仏教における〈心身〉の問題	単著	1986. 12	印度学仏教学研究 35-1	後期仏教徒の諸論書にみられる唯物論批判のうち特に心身論について概観した。	6頁
19. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 [VI-2] - <i>TS</i> における〈心身〉の問題 -	単著	1987. 1	密教文化157 高野山大学	<i>Tattvasaṃgraha</i> XXII章にみられる唯物論批判の実際を、翻訳をまじえて、心身論の観点から示した。	42頁
20. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 [IV] - <i>TS</i> における Svabhāvavāda 批判 -	単著	1987. 2	高野山大学論叢22	<i>Tattvasaṃgraha</i> IV章における「自然発生説」批判を、 <i>Ātakamāḥ</i> , <i>Pramāṇavārttika</i> およびその諸注釈との関連のもとに検討し、思想的展開の跡づけを行った。詳細な脚注を付した翻訳を付した。	31頁
21. Śāntaraksita's Refutation of (ahetu)vāda	単著	1987. 2	<i>Journal of Koyasan University</i> No.22	上記論文の英文化。1986年 Humburg における ICANAS XXXII学会における発表原稿。	9頁
22. 後期仏教哲学による聖典の階層的な理解	単著	1987. 3	宗教研究271	後期仏教論者たちが聖典を解釈する場合に、教理的立場を深化させて論じていく傾向について述べた。	2頁
23. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 前 [V-1] - <i>TS</i> における世の論証(2) -	単著	1988. 3	密教文化162 高野山大学	<i>Tattvasaṃgraha</i> XXII章にみられる唯物論批判の実際を、翻訳をまじえて、前世の論証の観点から示した。上記6の続編。	44頁
24. 世尊の規範性論証における〈慈悲の修習〉の意義	単著	1989. 3	宗教研究279	<i>Pramāṇavārttika</i> II. 119ff. における慈悲の習熟の問題について思想的観点から論じた。	3頁
25. 仏道の体系と瑜伽の階梯	単著	1989. 3	日本仏教学会年報54	Jñānagarbha Kamalaśīla などの瑜伽行の実践体系と、教理的展開の哲学的深化とが相応している様を明らかにした。	25頁
26. 求聞持法について	単著	1989. 11	高野山時報2544	高野山新別処における求聞持法修法について。	4頁
27. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 [VII] - Śāntaraksita による虚無批判 -	単著	1990. 2	高野山大学論叢25	<i>Tattvasaṃgraha</i> XXII章、 <i>Madhyamakālakāra</i> にみられる唯物論批判の実際を、翻訳をまじえて、中観的立場からの聖典解釈の問題を合わせ脱きながら、虚無論者批判の観点を示した。	32頁
28. Kamalaśīla の〈一乗思想〉について	単著	1990. 2	印度学仏教学研究 38-2	『中観光明論』を中心にインドにおける一乗説解釈の問題点を明らかにし	6頁

29. 瑜伽者における(身)と(心)	単著	1990. 2	日本印度学仏教学会 宗教研究283	た。 『金剛頂経』などにみられる瑜伽行者の願望の各段階における心身の問題を論じた。	2頁
30. 正法の世界	単著	1990. 9	在家仏教459	合法久住などの問題を、概説的に捉えて述べた。	3頁
31. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 [V-2] - TS における 前世の論証(3) -	単著	1990. 3	密教文化174 高野山大学	<i>Tattvasamgraha</i> XXII章にみられる唯物論批判の実際を、翻訳をまじえて、前世の論証の観点から示した。上記23の続編。	25頁
32. <i>Gūhyasamāja</i> XV 135に 対する <i>Ratākāraśānti</i> の註解	単著	1991. 3	密教学研究23 日本密教学会	後期密教経典 <i>Gūhyasamāja</i> からの引用係を中心に、 <i>Ratākāraśānti</i> の思想的立場と瑜伽実践のありようについて論じた。	14頁
33. Two Aspects of ( <i>paralokasādhana</i> ) in the Dharmakīrtian Tradition	単著	1991. 11	<i>Studies in the Buddhist Epistemological Tradition- Proceedings of the Second International Dharmakīrti Conference Vienna, June 11-16, 1989- ed. E. Steinkellner, Wien 1991.</i>	後期仏教諸論書にみられる Dharmakīrti 系の輪廻の論証にく衆生の苦の輪廻とく菩薩の慈悲の修習とという二つの側面があることを示した。国際ダルマキールティ学会における発表成果の英文論文。	39頁
34. 後期仏教徒による Bārhaspatya 批判 [V-3] - TS における 前世の論証(4) -	単著	1991. 12	密教文化177 高野山大学	<i>Tattvasamgraha</i> XXII章にみられる唯物論批判の実際を、翻訳をまじえて、前世の論証の観点から示した。上記35の続編	39頁
35. Jayarāsi による《識相統 説》批判	単著	1992. 3	宗教研究291	唯一残されているインド唯物論者の論書を資料として、唯物論者の仏教批判の視点を明らかにした。	3頁
36. <i>Pramāṇavārttika</i> II. 113 について	単著	1992. 11	印度学仏教学研究 40-2 日本印度学仏教学会	36. <i>Pramāṇavārttika</i> II. 113 に説かれる知識論の問題が唯物論者からの批判を披り、Kamalaśīla, Dharmottara がそれを仏教知識論の立場から批判していく状況を思想的にたどった。	7頁
37. On Śāntaraksita's Refutation of ( <i>Ahetuvāda</i> )	単著		<i>Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft, Proceedings of the XXXII International Congress for Asian and North African Studies Hamburg 25th-30th 1986, ed. A. Wezler, Stuttgart 1992.</i>	XXXII ICANAS の会議録のための 上記 20、21論文の英文レジュメ。	2頁
38. 『ナラ王の物語』をめぐ る Śāntaraksita の論議	単著	1992. 11	仏教学会報17 高野山大学	Śāntaraksita の一切智者をめぐる論議に引用される『ナラ王の物語』の一文に対する後期大乘徒の立場について。	6頁
39. <i>Pramāṇavārttika</i> II. 205-211 について	単著	1993. 3	印度学仏教学研究 41-2 日本印度学仏教学会	Dharmakīrti の修道論についての記述の背景となる知識論を Śāntaraksita の関連論議と対比して論じた。	8頁
40. Jayarāsi による《識相統 説》批判一酒の譬喩から煙 の譬喩へ	単著	1993. 5	密教文化182 高野山大学	唯一残されているインド唯物論者の論書を資料として、唯物論者の仏教批判の視点の変遷を明らかにした。	22頁
41. 『Sutasoma 本生』とそ の周辺一説話応用の変遷と いう側面から	単著	1993. 5	渡邊文彦博士追悼記 念論集 『原始仏教 と大乘仏教』	釈尊の前世物語の一つとして有名な <i>Sutasomajātaka</i> の大乘的変遷をたどりつつ、その説話の応用例を検討した。	24頁
42. <i>Pramāṇavārttika</i> II. 147 について	単著	1993. 7	宮坂有勝博士古稀記 念論集 『インド	苦として捉えられる生死輪廻について論ずる Dharmakīrti の論述の背景を、	23頁

			学・密教学研究』	インド哲学的観点から明らかにした。	
43. Dharmakīrti. <i>Svavṛtti ad Pramānavārttika</i> I 308 - Dharmakīrti の言及する密教儀礼について -	単著	1993. 11	密教学研究25 日本密教学会	Dharmakīrti が闡説する七世紀インドの密教儀礼と仏教徒のマントラ観について述べた。	27頁
44. 『知識論評釈』第二章 三十六頌について	単著	1994. 3	印度学仏教学研究 42-2 日本印度学仏教学会	<i>Pramānavārttika</i> II, 36 のもつ論理的な問題とその思想史的背景について論じた。	11頁
45. 学校教育における死の教育について	単著	1995. 1	密教文化189 高野山大学	高野山大学生命倫理研究会の研究成果として、特に Death Education の問題を論じた。	8頁
46. 〈svacittādhīṣṭhāna〉について	単著	1995. 3	印度学仏教学研究 43-2 日本印度学仏教学会	『華嚴経』「入法界品」にみられる自心加持 (svacittādhīṣṭhāna) の語の用例研究。	9頁
47. 誓願について	単著	1995. 3	日本仏教学会年報60 日本仏教学会	大乘論典に見られる発菩提心の諸相を系統化して論じた。	16頁
48. 〈自身加持〉について	単著	1996. 3	印度学仏教学研究 44-2 日本印度学仏教学会	大乘、密教典籍における自身加持の用語例解析。	7頁
49. <i>Smṛtijñānakīrti</i> による『菩提心註解』の解釈	共著	1996. 3	高野山大学論叢31 高野山大学	チベット訳 <i>Bocittavivaraṇāṭkā</i> の和訳研究	三井淳司 20頁
50. 真言門より行を行ずる菩薩	単著	1996. 9	高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集	『大日経』周辺に散見される「真言門より行を行ずる菩薩」という語の用例に注目し、大乘仏教における密教も形成の問題を論じた。	18頁
51. 輪廻の起動因 - <i>Pramānavārttika</i> II 184・190 について -	単著	1997. 3	印度学仏教学研究 45-2 日本印度学仏教学会	輪廻の起動因に関する Dharmakīrti の見解を解説した。	7頁
52. On <i>bodhicittabhāvanā</i> in the Esoteric Buddhist Tradition	単著	1997.	Tibetan Studies -Proceedings of The Seminar of the International Association of Tibetan Studies, Graz 1995, ed. E. Steinkellner.	8世紀以降の菩提心修習論書を中心に菩提心の実践行と教理的背景について述べた。第七回国際チベット学会における発表成果の英文論文。	12頁
53. 『華嚴経』における陀羅尼思想	単著	1998. 3	『密教学研究』 第30号	『華嚴経』「十地品」などに見られる陀羅尼 (dhāraṇī) の用語例研究。	18頁
54. 如来秘密 - 三密行とのかかわりから -	単著	2000. 1	高野山大学密教文化 研究所紀要 別冊2	『華嚴経』、『如来秘密経』などの如来秘密についての記述から密教の三密瑜伽への展開を探った。	21頁
55. 如来性起をめぐる覚え書き	単著	2000. 11	高木神元博士古稀記念論集 仏教文化の諸相	『大日経』外篇「如来出生曼荼羅加持品」にみられる『華嚴経』「如来性起品」などの影響について論じた。	26頁
56. Buddhaguhya『大日経註』にみられる『大日経』の意趣について	単著	2001. 3	密教文化第206号 高野山同学会	『大日経』の意趣に関する Buddhaguhya の見解と、経題解釈について、後期知識論者たちの見解との関わりから明らかにした。	21頁
57. Review on Franco Eli, <i>Dharmakīrti on Compassion and Rebirth</i>	単著	2001. 3	<i>Indo Iranian Journal</i> 44	Franco Eli, <i>Dharmakīrti on Compassion and Rebirth</i> , <i>WSTB</i> Heft 38, Wien 1997 の書評	7頁
58. 作用をとまなう法身	単著	2002. 3	密教学研究第34号	現観莊嚴論の法身説法と真言密教における法身説法の意味について、方法的観点から論じた。	16頁
59. 大乘における密教の形成	単著	2002. 8	高野山大学公開講座 テキスト	大乘仏教において密教がどのような、思想的変遷を遂げて密教へと変貌しいかなる変容を経て日本の真言密教が形成されるかを論じた。	97頁
60. Shingonmon, -The Establishment of mantra-practice in Mahāyāna Buddhism and the Japanese Modification	単著	2004. 03	Esoteric Buddhist culture Special Issue 2	大乘仏教における密教の形成と日本における真言密教の展開についてのべた。	20頁

of it as the form of Shingon Buddhism-					
61. Santaraksita, On cintaamani	单著	2010. 2	Journal of Koyasan University vol. 45	シャーンタラクシタの仏陀観を『真理綱要』とその周辺の典籍から問題化した。	11頁
62. 弘法大師空海与華嚴思想	单著	2010. 4	主届中国密教国際學術検討会論文集		8頁
(その他)					
1. 大正新脩大藏經索引 第22卷 經疏部 4		1980. 2		共同編集	
2. 30th All India Oriental Conference (Santíniketan) に参加		1980. 1			
3. 大正新脩大藏經索引 第33卷下 統經疏部		1988		共同編集	
		2001. 5		編集理事	
4. 『仏教辞典』 (Buddhica)		1990. 2	小学館	項目執筆	
5. 『大正新脩大藏經索引 第22卷經疏部 4』		1977. 4	高野山大学大藏經学～	共同編集	
		1979. 10	術用語研究会		
6. 『大正新脩大藏經索引 第33卷下 統經疏部』		1983. 4	大正新脩大藏經學術～	共同編集	
		1992. 2	用語研究会		
7. 『大正新脩大藏經解題集成』 編纂に参画		1992. 9	大正新脩大藏經學術～	編集委員	
		現在	用語研究会		
(文部省科学研究費補助金)					
1. 八世紀インドにおける仏教と他学派との対立交渉		1978. 4	昭和53年度総合研究～	梶山雄一代表	
		1980. 10	(A)		
2. インド禪定思想とその周辺への影響		1978. 4	昭和53年度総合研究～	柳田聖山代表	
		1979. 10	(A)		
3. 大正新脩大藏經統經疏部 (1)、(2)における諸典籍の総合的研究		1979. 4	昭和54年度総合研究～	中村瑞隆代表	
		1979. 10	(A)		
4. 毘盧舎那佛を中心とする佛身思想の研究		1983. 4	昭和58年度一般研究～	氏家覚勝代表	
		1986. 3	(B)		
5. 日本における悉曇・梵讃の総合的研究		1984. 4	昭和59年度総合研究～	大久保良順代表	
		1986. 3	(A)		
6. 日本撰術理趣経関係釈論における學術用語の総合的研究		1986. 4	昭和61年度総合研究～	高木神元代表	
		1989. 3	(A)		
7. 日本台密典籍における學術用語の研究		1987. 4	昭和62年度総合研究～	塩入良道代表	
		1990. 3	(A)		
8. チベット語訳後期大乘論典における訳語例の研究		1991. 4	平成3年度一般研究～	生井智昭代表	
		1993. 3	(C)		
9. 大乘仏教における密教の形成		1996. 4	平成7年度総合研究～	松長有慶代表	
		1998. 3	(A)		
10. 『華嚴經』の研究—大乘仏教から密教へ		1997. 4	平成9年度基礎研究～	越智淳仁代表	
		2000. 3			

<p>(科学研究費補助金研究成果報告書)</p> <p>1. 『チベット語訳後期大乘論典における訳語例の研究』— 電算機利用の文献解析に基づく原典批判と聖典解釈への試み—</p> <p>2. 『華嚴經』の研究— 大乘仏教から密教へ 1997. 4~2000. 3 平成9年度基礎研究 越智淳仁代表</p>	<p>1993. 3</p> <p>2000. 3</p>	<p>平成3、4年度科学研究費補助金研究成果報告書</p> <p>平成9-11年度科学研究費補助金研究成果報告書</p>		
<p>(口頭発表)</p> <p>1. <i>Pramāṇavārtika</i> I I. 36について</p> <p>2. 『華嚴經』における三つの唯心説</p> <p>3. Three Aspects of (<i>cittamātrā</i>) in the <i>Buddhāvataṃsakasūtra</i></p> <p>4. 密教研究におけるコンピューター利用の現状と展望 (II)</p> <p>5. 〈自身加持〉について</p> <p>6. On <i>bodhicittabhāvanā</i> in the Esoteric Buddhist Tradition</p> <p>7. 『華嚴經』における〈我業〉について</p> <p>8. Śrīdhara's criticism on th Buddhist <i>cittasantāna</i> Theory</p> <p>9. On <i>mantranaya</i></p> <p>10. Shingonmon, -The Establishment of mantra-practice in Mahāyāna Buddhism and the Japanese modification of it as the form of Shingon Buddhism-</p> <p>11. 空海思想的印度文化和中国文化</p> <p>12. 如意宝珠の譬え— シャーントラクシタのばあい—</p> <p>13. 弘法大師空海与華嚴思想</p> <p>14. Trisamaya -On Esoteric Meditation of Shingon Buddhism and the Mahāvairo canabhisambodhisutra</p>	<p>1993. 3</p> <p>1993. 9</p> <p>1994. 10</p> <p>1995. 6</p> <p>1995. 6</p> <p>1995. 6</p> <p>1997. 6</p> <p>1997. 11</p> <p>1998. 7</p> <p>2002. 9</p> <p>2004. 4</p> <p>2008. 7</p> <p>2010. 4</p> <p>2010. 9</p>	<p>日本印度学仏教学会第2回学術大会</p> <p>密教研究会</p> <p>11th Confrence of International Association of Buddhist Studies</p> <p>密教研究会</p> <p>日本印度学仏教学会</p> <p>7th Seminar of International Association of Tibetain studies</p> <p>密教研究会</p> <p>4th International Dharamakīrti Conference</p> <p>8th Seminar of the International Assocoation of Tibetan Studies Indiana Univ.USA</p> <p>"Matrices and Weavings", International Symposium held at University of Hawaii</p> <p>空海与中日文化交流学術検討会 中華人民共和国 上海 復旦大学</p> <p>第61回密教研究会学術大会</p> <p>The First International Conference on China Esoteric Buddhism</p> <p>6th Biannal International Conference on Buddhist Meditation</p>		

学会等および社会における主な活動		生井
1974(昭和49年)	日本印度学仏教学会	
1977(昭和52年)	密教研究会	
1977(昭和52年)	京都哲学会	
1977(昭和52年)	日本密教学会	
1982(昭和57年)	日本仏教学会	
1982(昭和57年)	日本宗教学会	
1986(昭和61年)	日本仏教教育学会	
1988(昭和63年)	密教図像学会	
	印度学宗教学会	
1990(平成2年)	インド思想史学会	
1995(平成7年)	ジャイナ教学会	
1995(平成7年)	日本西藏学会	
2000(平成12年)	宗教倫理学会	
2009(平成21年)	日本スピリチュアルケア学会	
1992(平成4年)	The International Association of Buddhist Studies	
1994(平成6年)	The International Association for Tibetan Studies	
1970. 4. 1~1972. 3. 31 (昭和45年4月1日-昭和47年3月31日)	高野山真言宗国内留学生 (京都大学大学院文学研究科宗教学・仏教学専攻)	
1978. 1~1978. 4 (昭和53年1月-4月)	Cambridge, Newnhamme Language Center 語学研修	
1979. 10~1981. 7 (昭和54年10月-昭和56年7月)	昭和54年度文部省東南アジア派遣留学生 (Ahmedabad, L, D, Institute of Indology研究に従事)	
1993. 4~(平成5年4月~)	大蔵経学術用語研究会理事 (現在に至る)	
1997. 4~2000. 3 (平成9年4月-平成12年3月)	日本密教学会理事	
2000. 4~(平成12年4月~)	日本密教学会常任理事	
2002. 4~(平成14年4月~)	日本印度学仏教学会評議員 (現在に至る)	
2002. 10~(平成14年10月~)	宗教倫理学会評議員 (現在に至る)	
2003. 4~(平成15年4月~)	日本印度学仏教学会理事 (現在に至る)	
1993. 4~現在(平成5年4月~)	仏教学術振興会評議員 (現在に至る)	
1994. 4~2007. 3 (平成6年4月-平成19年3月)	高野山真言宗学階選考委員	
1996. 4~2007. 3 (平成8年4月-平成19年3月)	高野山勸学財団審査委員 (現在に至る)	
2003. 4~2007. 3 (平成15年4月-平成19年3月)	高野山勸学財団理事 (現在に至る)	
2003. 4~2007. 3 (平成15年4月-平成19年3月)	和歌山県高等教育コンソーシアム副会長	
2003. 5~2007. 3 (平成15年5月-平成19年3月)	(財) 和歌山社会経済研究所評議員	
2003. 4~2007. 3 (平成15年4月-平成19年3月)	高野山学園理事	
2003. 4~2007. 3 (平成15年4月-平成19年3月)	高野山文化財保存会理事	
2003. 4~2007. 3 (平成15年4月-平成19年3月)	世界遺産登録委員会理事	
2007. 5~現在 (平成19年5月~現在)	Vice Chairman of the International Association of Buddhist Universities	
2007. 4~現在(平成19年4月~現在)	高野山真言宗人権委員会常任理事	
2009. 4~現在(平成21年4月~現在)	仏教学術振興会理事	
2009. 4~現在(平成21年4月~現在)	仏教伝道協会英文大蔵経編集委員	
1998. 7(平成10年7月)	「輪廻思想をめぐって」於 二水会例会 (淡路) 講演	
1998. 8(平成10年8月)	「自己を求める旅」於 下妻高校同窓会 (茨城) 講演	
1999. 2(平成11年2月)	「業説と宿業論」於 同和研究会 (淡路) 講演	
2003. 8(平成15年8月)	「阿字のふる里-多様性容認の論理」於 毎日新聞社夏期大学	
2003. 8(平成15年8月)	宗教倫理学会高野山研究集会	
2003. 9(平成15年9月)	「出あいと縁」於 和歌山県健康生きがいがづくりアドバイザー全国大会	

2003. 9(平成15年9月)	「密教文化と高野山大学」、ペンダム会 (高野山)
2003. 11(平成15年11月)	Esoteric Buddhist Tradition and Our University, Additional Program at International Colloquium on Plant Biotechnology, Osaka Pref. University.
2003. 11(平成15年11月)	「ダイラマを囲む討論会」於 「二十世紀の智と実践を考えるフォーラム」 (奈良)
2004. 2(平成16年2月)	「仏教の提示する平和の理念」 於 本願寺国際センター
2004. 2(平成16年2月)	「宇宙と曼荼羅」 於 和歌山大学・高野山大学共催シンポジウム
2004. 5(平成16年5月)	「弘法大師空海の思想における中国仏教の影響」 於 高野山大学同窓会美作支部総会
2004. 6(平成16年6月)	「東洋的視点から見た生命倫理 一大乗仏教の観点から」 於 宗教倫理学会定例研究会
2008. 8. 10 (平成20年8月10日)	「熊野スピリチュアルー吉野・熊野・高野ー」 於熊野セラピスト養成講座 熊野本宮
大学行政への係わり (所属委員会)	
平成13年度 (2001年)	文学研究科長 教務委員会 生命倫理研究会 (オブザーバー) 自己点検運営委員会 教員資格審査委員会 大学院委員会 密教文化研究所協議会 生涯学習検討委員会 (オブザーバー) 情報処理委員会 (オブザーバー) FD検討委員会 (オブザーバー) 将来構想検討委員会
平成14年度 (2002年)	密教文化研究所長 将来構想検討委員会 教務委員会 生命倫理研究会 (オブザーバー) 自己点検・評価運営委員会 教員資格審査委員会 大学院委員会 生涯学習委員会
平成15年度 (2003年)	学長 密教文化研究所長 自己点検・評価運営委員会 同和教育研究会 入学試験委員会 教務委員会 大学院委員会 図書館協議会
平成16年度 (2004年)	学長 密教文化研究所長 自己点検・評価運営委員会 大学院委員会 図書館協議会 高野山大学百二十周年記念事業準備委員
平成18年度 (2006年)	学長 密教文化研究所長 自己点検・評価運営委員会 同和教育研究会 入学試験委員会 大学院委員会 図書館協議会 図書館善本集成刊行会設置準備委員会 創立120周年記念事業委員
平成19年度 (2007年)	密教文化研究所長 自己点検・評価運営委員会 密教文化研究所協議会
平成20年度 (2008年)	教員資格審査委員会
平成21年度 (2009年)	
平成22年度 (2010年)	



所属	文学部	職名	教授	氏名	生井智紹	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日		概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1992-2001 (平成4-平成13年) 1996-2003 (平成8-平成15年) 1998-2002 (平成10-平成14年) 2004- (平成16年-) 2005-2007 (平成17-平成19年) 2007- (平成19年-)		著名外国人研究者を招き、学内研究者、大学院生との交流会を多種組織企画。 課外読書会、輪読会などを通じて、サンスクリット語・パハット語の古典外国語の指導。 海外大学生と大学院生との交流会の開催。 大学院留学生のための英語による授業補助 イタリアのカソリック系大学との交流を通じて大学における宗教教育のありようを検討した。 国際仏教系大学連盟の設立運営を通じて、例年数度の国際会議において副会長として仏教精神に基づく国際的教育問題の討議を続けている。		
2. 作成した教科書、 教材、参考書		1996. 7 (平成8年7月) 1997. 3~1999. 3 (平成9年3月-平成11年3月) 1998. 7 (平成10年7月) 2001. 6 (平成13年6月) 2002. 8 (平成14年8月) 2004. 4 (平成16年4月) 2008. 8 (平成20年8月)		『死と宗教=臓器移植』高野山大学生命倫理研究会委員として共同編集) 『生と死-その種々相一』(高野山大学生命倫理研究会委員長) 『インド密教の形成と展開』(共同執筆) 『仏典入門辞典』(仏教系六大学大蔵経学術用語研究会共同編集担当) 『大乘における真言密教の形成について』 『密教概論-学習の手引き-』通信制大学院用教科書 『密教: 自心の探求-『菩提心論』を読む』を通信制大学院教科書参考書として刊行		
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		1995. 10 (平成7年10月) 1995. 1 (平成7年1月) 2003. 10 (平成15年10月) 2004. 1 (平成16年1月) 2004. 4 (平成16年4月)		「生命倫理シンポジウム 死と宗教」、高野山大学生命倫理研究会シンポジウム、学生の死の観念についての調査に基づく教育について。 「学校教育における死の教育について」『密教文化』189 「子弟教育を問う」、日本密教学会平成15年度学術大会シンポジウム。 「困難な時代の宗教教育」、『友愛』 「子弟教育について」、『学報』		
4. その他教育活動上 特記すべき事項		1995. 10 (平成7年10月) 2001. 10 (平成13年10月) 1996~2002 (平成8~14年) 1996~ (平成8年~) 1996~ (平成8年~) 2002~ (平成14年~) 2003~		高野山大学大学院博士論文(仏教学) 主査 高野山大学大学院博士論文(密教学) 主査 文学研究科長二期六年執務(1996-2002) 高野山勸学財団奨学生選考委員として院生の研究環境整備 博士号授与のための学内組織の整備 密教文化研究所所長として博士論文提出者の研究環境整備 高野山大学学長就任		

(平成15年～) 2003～ (平成15年～) 2007～ (平成19年～)	和歌山県高等教育コンソーシアム副会長 Vice Chairman of The International Association of Buddhist Universities
--	--